

『みんなの笑顔のために』

人の役にたつ(奉仕の心)

本校では、毎朝8時05分からの10分間、朝のボランティア活動に取り組んでいます。この時期、子どもたちは、運動場の草取りをがんばってくれています。おかげで夏休み明けすぐのときに比べて見違えるほど運動場がきれいになってきました。子供たちのがんばりに感謝しているところです。



先日、とてもうれしいことがありました。私は毎朝7時30分過ぎから学校正門の掃除をしています。9月6日(水)の朝のことです。私がほうきで落ち葉の掃き掃除をしていると、3年生の男の子が、「先生、落ち葉を集めるためのリヤカーをもってきましょうか。」と言って、私が掃除をしているところまでリヤカーを運んでくれたあと、ほうきで掃除をはじめてくれたのです。



その児童は、「気づき、考え、行動する」力(人の役に立とうとする心、奉仕の心)を身につけてくれていたのです。そのことがとてもうれしく感じました。そんな子どもたちがたくさん育ってくれています。

「奉仕の心」に関して、広島県教育委員会ホームページの「豊かな心を育てる道徳教育コーナー」に地域の方から寄せられたお話がありましたので紹介します。

「一本の道」

県北に、今年一番の大雪が降りました。朝起きて窓の外を見ると、外は真っ白、40cmぐらいの雪が積もっています。ああ、また、今朝もこの雪道を通勤するのかと、少し憂鬱な気分で家を出ました。すると思った通り、道はつるつる、車も列を作ってノロノロと動いています。

「えっ、あぶないなー。」 そんな時、一つの光景が目飛び込んできました。歩道に積もった雪を避けているのですが、小学生の集団が、車道を歩いているのです。横を通る車も、恐る恐るスピードを緩めながら通り過ぎている様子が伝わってきました。わたしは、反対車線を通っていたのですが、「気持ちは分かるけど、ちょっと考えて歩いたほうがいいんじゃないかな。」と、少し通勤の遅れのイライラも加わって、その小学生の集団の様子の非常識な行動に少し憤慨しながら、その場を通り過ぎました。

そして、その日の夕方、仕事からの帰り道、朝のそんな光景もすっかり忘れて、車を運転していた時のことです。一人の男の人が、歩道で何かしています。よく見ると、スコップを持って、雪をかいているようです。その時、ハッと気づきました。その場所は、今朝、小学生の集団が、車道を歩いていた道なのです。きっと、その男の人も、今朝、その光景を見たのでしょうか。

しかし、それを冷たく見るのではなく、この人は、「この小学生たちのために何とかしなければ・・・。」と考えたのでしょうか。よく見ると、雪の歩道に、一本の道が、延々と続いています。この道を作るために、この人は、何時間、雪をかき続けたのでしょうか。寒い北風の吹く冬の夕暮れの中で、何を考えながら、雪をかき続けたのでしょうか。明日の朝、驚きの表情を浮かべながら、笑顔でこの一本の道を通るであろう小学生の子どもたちを思い浮かべた時、何か胸が熱くなるものを感じ、バックミラーに映る、真っ赤な顔で汗をかきながら雪をかき男の人を、私は見えなくなるまで見続けました。その後ろに続く一本の細い道とともに・・・。

(広島県教育委員会ホームページ「豊かな心を育てる道徳教育コーナー」より)